

事業所評価まとめ

環境・体制整備

- 子供の特性に合わせた環境の工夫がされているか。
- ・ 多機能型なので、子供に特化した対応は難しいが、一人一人の特性を大事にした環境・体制整備をしていきたい。装飾には、利用者が作った作品を飾るなどの工夫をしている。

業務改善

- 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。
- ・ 院内研修には出来る限り参加し、資質の向上に努めている。
- ・ 医療的ケア児を受け入れているため、基礎的な医療を含む研修等には、今後も取り組んでいく。

適切な支援の提供

- 子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。
- ・ 対象者がいれば、生活介護利用者と同じアセスメントツールを使用する予定でいる。アセスメントに関しては、スタッフが共有できるように工夫していきたい。
- 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。
- ・ 創意工夫はしているが、今後は身体を動かすようなプログラムも考えていきたい。
- ・ 今後も、本人のニーズに合わせた新たなプログラムを取り入れていきたい。
- ・ マンネリ化しない様に、年に一度見直しをしている。
- 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。
- ・ 休日は家での生活リズムを尊重しているので、特に設定はしていないが、家族から希望があれば検討し、支援を行いたい。
- 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。
- ・ ごく簡単に朝のミーティングで行っている。
- 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。
- ・ 決まった時間は取っていないが、気になっていることは終了後に話をする様にしている。
- ・ 毎日全員で同じ時間は取っていないが、気になることはその場で解決するようにしている。

- 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。
- ・関わったことを必ずしも記録するわけではないが、必要なことに関しては、正しく記録出来る様に努めている。
- ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか。
- ・個人の変化に合わせて、意思の尊重をしながら、対応を行っている。

関係機関や保護者との連携

- 日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達の状況や課題について共通理解を持っているか。
- ・日々の様子は、連絡ノートや送迎時に必ず情報共有はしている。今後も継続し、共通理解に努めていきたい。
- 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか
- ・幅広く参加をするためには、場所などを考慮してもらい、出来る限り参加に努めていきたい。
- 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。
- ・行っているが、利用人数が少ないため、体制が整っているか見えにくい。マニュアル化が出来ていないため、今後はマニュアル化を進めていきたい。
- 子どもへの活動や支援は、地域や地域の子どもの交流につながっていく見通しを持って行っているか。
- ・外出経験としての機会は設けているが、地域との交流につながる見通しは持っていない。今後の課題として、検討していきたい。

保護者への説明責任等

- 保護者さま同士の交流やつながりが生まれる場になっているか。またそういった場を作っているか。
- ・年1回親睦会を行い、交流の機会を設けている。
- ・今年度は利用時の様子を保護者が見学に来る機会「活動公開」を設け、保護者の交流の場となる時間を増やした。
- 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信しているか。
- ・年2回だが発行している。

非常時の対応

- 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。
- ・ マニュアルは各場所に備えてある。保護者にもお話しするが、マニュアルを渡すことはしていない。
- ・ 保護者に対しての緊急時や防犯の対応について初めに説明しているが、定期的には行っていない。
- ・ 各種マニュアルはあるが、保護者に周知していない。
- ・ 災害の危険がある場合は、その都度の判断で、どの様に行動するかを伝え、早めの行動をとっている。
- ・ 早急に、非常時の実際の手順を作成し、保護者と共有できる様に努めたい。
- 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。
- ・ センターの訓練に参加している。
- 食物アレルギーのある子供について、医師の指示書に基づく対応がされているか。
- ・ 現在対象者はいないが、必要に応じて対応する。
- ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。
- ・ 事業所での実施は出来ているが、職員の意識に欠ける部分もあるので、ヒヤリ、ハットした時にすぐに記載できる方法を考えていく。